

KDP登録は、3つの画面を進むだけ

初めてでも迷わないKindle出版の登録手順

原稿が完成した。

表紙もできた。

あとはKDPへ登録すれば、いよいよ出版です。

ところが、KDPの画面を開くと、

「入力する項目が多そう」

「間違えたら出版できないのでは？」

「キーワードやカテゴリーなんて、どう選べばいいの？」

と、不安になる方もいると思います。

ですが、Kindle電子書籍の登録は、大きく分けると次の3つだけです。

1. 本の情報を入力する
2. 原稿と表紙をアップロードする
3. 価格を決めて出版申請する

難しい専門知識が必要な作業ではありません。

完成した原稿と表紙を用意し、画面の上から順番に進めれば大丈夫です。

最初に用意するものは3つ

KDPを開く前に、次の3つだけ用意してください。

- ・完成した原稿
- ・完成した表紙
- ・正式なタイトルと著者名

特に重要なのが、正式タイトルです。

表紙に記載されているタイトルと、KDPへ入力するタイトルは、正しく一致させる必要があります。

似た言葉だから大丈夫。

意味は同じだから大丈夫。

ではありません。

たとえば、表紙が、

「初めてのKindle出版」

なのに、KDPへ、

「初心者のためのKindle出版」

と入力すると、別のタイトルになっています。

ここだけは、出版前に必ず確認してください。

表紙の作り方と、正式タイトルを一致させる方法は、第11回で詳しく紹介しています。

※ここに第11回の記事リンクを挿入

KDP登録で迷いやすいのは、入力より「選ぶ項目」

タイトルや著者名は、そのまま入力できます。

原稿と表紙も、完成したファイルをアップロードするだけです。

多くの方が迷うのは、

- ・本の説明をどう書くか
- ・カテゴリーをどう選ぶか
- ・キーワードに何を入れるか
- ・AIを使った場合、どう申告するか
- ・KDPセレクトへ登録するか
- ・販売価格をいくらにするか

という項目です。

ここを一人で考えようとする、難しそうに感じます。

しかし、それぞれに選び方があります。

特にキーワードとカテゴリーは、出版時に完璧な正解を出す必要はありません。

本の内容に合うものを選んで出版し、必要に応じてあとから変更できます。

AIを使った本も、正しく申告すれば出版できる

このシリーズでは、AIを使って原稿や表紙を作る方法を紹介してきました。

AIを使ったからといって、Kindle出版ができなくなるわけではありません。

ただし、AIが生成した文章、画像、翻訳などを使用している場合は、KDP登録時に正しく申告する必要があります。

自分で書いた文章の誤字をAIに確認してもらっただけなのか。

AIが作った文章を原稿に使用したのか。

AIで表紙画像を生成したのか。

有料部分では、この違いもわかりやすく整理します。

ここから先で、一緒にKDP登録を進めます

有料部分では、KDPの登録を次の3画面に分けて解説します。

画面1 本の情報

- ・タイトルと著者名
- ・本の説明
- ・カテゴリー
- ・キーワード

画面2 原稿と表紙

- ・原稿のアップロード
- ・表紙のアップロード
- ・AI利用の申告
- ・プレビュー確認

画面3 価格

- ・KDPセレクト
- ・ロイヤリティ

- ・販売価格
- ・出版申請

キーワードやカテゴリーも、

「何となく選ぶ」

のではなく、読者がどのように本を探すかをもとに選びます。

また、出版後に変更できる項目と、簡単には変更できない項目も分けて紹介します。

価格は500円です。

原稿と表紙が完成している方なら、この記事を見ながら、そのままKDPへの登録を進められます。

「登録が難しそう」という不安をなくし、今日、出版申請まで進みたい方は、このまま続きをご覧ください。

ここから有料部分です

KDP登録は3画面で完了する

KDPへログインし、本棚から、

「Kindle電子書籍を作成」

を選択します。

あとは、表示される3つの画面を上から順番に進めます。

画面1 本の情報を入力する

最初の画面では、Amazonの商品ページに表示される情報を入力します。

主な項目は次の4つです。

1. タイトルと著者名
2. 本の説明
3. カテゴリー
4. キーワード

一つずつ進めていきましょう。

1. タイトルと著者名を入力する

日本語で書いた本なら、言語は「日本語」を選びます。

次に、表紙に記載した正式タイトルを、そのまま入力します。

サブタイトルがある場合も、表紙と同じ内容を入力してください。

例

表紙の正式タイトル

初めてのKindle出版

KDPへ入力するタイトル

初めてのKindle出版

言葉を省略したり、登録画面で新しい言葉を追加したりしないようにします。

著者名も、表紙と同じ表記にします。

表紙が「まき」なら、KDPでも「まき」です。

「マキ」や「Maki」に変えないようにしてください。

タイトルや著者名は、出版後に簡単には変更できません。

ここは急がず、一文字ずつ確認します。

2. 本の説明を入力する

本の説明は、Amazonの商品ページに表示される紹介文です。

読者は、表紙やタイトルに興味を持ったあと、この説明を読んで購入するか判断します。

難しく考える必要はありません。

次の順番で書けば、説明文を作れます。

1. 読者の悩み
 2. この本で学べること
 3. 読後にできること
 4. おすすめする人
-

本の説明テンプレート

「〇〇したいけれど、△△で止まっている」

そのように感じていませんか？

この本では、〇〇に悩んでいる方に向けて、△△する方法をわかりやすく解説します。

本書で学べること

- ・〇〇
- ・〇〇
- ・〇〇
- ・〇〇

本を読み終える頃には、〇〇できる状態を目指します。

こんな方におすすめです。

- ・〇〇を始めたい方
 - ・〇〇で悩んでいる方
 - ・〇〇を効率よく進めたい方
-

ChatGPTで本の説明を作る

説明文を一から考えるのが難しい場合は、ChatGPTへ次のように依頼します。

私は、Kindle本の商品説明を作ります。

次の情報をもとに、初心者にも内容が伝わる説明文を作ってください。

【タイトル】

〇〇

【想定読者】

〇〇

【読者の悩み】

〇〇

【読後にできること】

〇〇

【本で学べる内容】

〇〇

条件は次の通りです。

- ・最初に読者の悩みを書く
- ・本文にない内容を追加しない
- ・強すぎる約束をしない
- ・短い段落で読みやすくする
- ・学べる内容を箇条書きにする
- ・最後におすすめする読者を書く

3案作ってください。

AIが作った文章を確認し、自分が実際に書いた内容と合うものを選びます。

本の説明は、出版後も変更できます。

最初から完璧な紹介文を作ろうとして、出版を止める必要はありません。

3. カテゴリーを選ぶ

カテゴリーは、

「この本が、Amazonのどの売り場に並ぶか」

を決めるものです。

最大3つまで選べます。

カテゴリー選びで大切なのは、

「ランキングを取りやすそうな場所」

ではなく、

この本を探している読者がいそうな場所

を選ぶことです。

カテゴリーは3つの手順で選ぶ

手順1 Amazonで似た本を探す

自分の本と同じテーマや、同じ読者向けの本を3冊から5冊探します。

たとえば、Kindle出版の本なら、

「Kindle出版 初心者」

「電子書籍 作り方」

などで検索します。

手順2 似た本のカテゴリーを見る

商品ページの下部などに表示される、売れ筋ランキングのカテゴリーを確認します。

複数の似た本が登録されているカテゴリーがあれば、自分の本にも合う可能性があります。

手順3 本全体に合うものを選ぶ

本の一章だけではなく、本全体の内容を表しているカテゴリーを選びます。

たとえば、Kindle出版を使った副業について書いている本でも、内容の中心が出版方法なら、

出版や文章術に近いカテゴリーを優先します。

副業の話が少し出てくるだけで、副業全般のカテゴリーを中心にしないようにします。

カテゴリー選びの例

本の内容

AIを使って初心者がKindle出版する方法

考えられる方向性

- ・電子書籍出版
- ・文章術、執筆
- ・コンピューター、インターネット活用

実際に選べる名称は、KDPの登録画面で確認します。

AIへ相談する場合も、存在するカテゴリーを勝手に作らせないようにしてください。

ChatGPTへカテゴリーを相談する

次のKindle本に合うカテゴリーの方向性を考えてください。

【本のテーマ】

〇〇

【想定読者】

〇〇

【本の主な内容】

〇〇

【読後にできること】

〇〇

条件は次の通りです。

- ・本の一部ではなく、全体を表すカテゴリーを考える
- ・競合が少ないという理由だけで選ばない
- ・読者が探しそうな場所を優先する
- ・実際にKDPで選べる名称かは、私が登録画面で確認する

カテゴリーの方向性を3案と、それぞれが合う理由を教えてください。

カテゴリーは出版後も変更できます。

迷った場合は、最も本の中心テーマに近いものを選んで、まず出版してください。

4. キーワードを選ぶ

キーワードは、読者がAmazonで検索するときに使いそうな言葉です。

最大7つまで入力できます。

難しい検索技術は必要ありません。

次の3つから考えます。

- ・誰が読む本か
 - ・何に悩んでいるか
 - ・どんな方法を知りたいか
-

キーワードの作り方

たとえば、

「AIを使って初心者がKindle出版する本」

なら、次のように考えられます。

読者

- ・Kindle出版 初心者
- ・文章が苦手な人 本を書く

悩み

- ・本のテーマが決まらない
- ・電子書籍 書き方

方法

- ・AIで本を書く
- ・ChatGPT Kindle出版
- ・電子書籍 作り方

単語を一つだけ入れるよりも、読者が検索しそうな短い言葉の組み合わせにします。

避けたいキーワード

次のような言葉は避けます。

- ・内容と関係のない人気ワード
- ・ほかの著者名
- ・ほかの本のタイトル
- ・ベストセラー

- ・無料
- ・絶対売れる
- ・同じ言葉の繰り返し

キーワードは、読者を集めるためなら何を入れてもよいわけではありません。

本の内容と正しく合う言葉を選びます。

ChatGPTでキーワード候補を作る

私は、Kindle本の検索キーワードを考えています。

【タイトル】

〇〇

【想定読者】

〇〇

【読者の悩み】

〇〇

【本の内容】

〇〇

【本で紹介する方法】

〇〇

次の3つに分けて、キーワード候補を提案してください。

1. 読者を表す言葉
2. 悩みを表す言葉
3. 方法を表す言葉

Amazonで初心者が検索しそうな、自然な短いフレーズにしてください。

内容と関係のない人気ワード、ほかの著者名、ほかの本のタイトルは入れないでください。

最後に、候補の中から優先度の高い7つを選んでください。

提案された言葉をAmazonで検索し、表示される本が自分の本に近いか確認します。

近い本が表示されれば、読者が使う可能性のある言葉です。

キーワードも、出版後に変更できます。

最初から完璧な7つを選ぶより、本の内容に合うものを入れて出版し、あとから調整してください。

画面1が終わったら保存する

ここまで入力したら、画面下のボタンから次へ進みます。

この時点で、特に確認するのは次の2つだけです。

- ・タイトルと著者名が表紙と同じ
- ・本の説明が実際の内容と合っている

カテゴリーとキーワードは、出版後にも変更できます。

迷いすぎず、次へ進んでください。

画面2 原稿と表紙を登録する

次の画面では、完成した原稿と表紙をアップロードします。

ここで行うことは、次の3つです。

1. 原稿をアップロードする
 2. 表紙をアップロードする
 3. プレビューを確認する
-

1. 原稿をアップロードする

完成した原稿ファイルを選択します。

文章中心のシンプルな本なら、Word形式のDOCXなどを使用できます。

大切なのは、ファイル形式よりも、古い原稿を間違えてアップロードしないことです。

ファイル名を、

「タイトル_完成版」

のようにしておく、間違いを防ぎやすくなります。

原稿の推敲が終わっていない場合は、第10回を確認してください。

※ここに第10回の記事リンクを挿入

2. 表紙をアップロードする

第11回で作成した表紙をアップロードします。

※ここに第11回の記事リンクを挿入

アップロード前に、

- ・タイトル
- ・サブタイトル
- ・著者名

が、KDPへ入力した内容と一致しているか確認します。

ここは、デザイン以上に重要です。

3. AIを使った内容を申告する

登録画面では、AI生成コンテンツを使用したかを確認されます。

考え方はシンプルです。

AI生成として申告する例

- ・AIが作った本文を使用した
- ・AIが作った画像を表紙に使用した
- ・AIが作った挿絵を使用した
- ・AIが翻訳した文章を使用した

AI補助として考えられる例

- ・自分で書いた文章の誤字を確認してもらった
- ・自分の文章を読みやすく整えてもらった
- ・企画やタイトルについて相談した
- ・構成案を参考にして、自分で本文を書いた

AIが作った文章や画像そのものを使っている場合は、正しく申告します。

AIを使ったからといって、出版できなくなるわけではありません。

隠さず、実際に使った内容に合わせて選択してください。

4. プレビューを確認する

原稿と表紙を登録したら、プレビューを開きます。

すべてのページを細かく校正し直す必要はありません。

まずは、次の部分を確認します。

- ・表紙が正しく表示されている
- ・目次から各章へ移動できる
- ・章タイトルが崩れていない
- ・画像が切れていない
- ・大きな空白ページがない
- ・巻末のリンクが正しい

問題があれば、元の原稿を修正して再アップロードします。

問題がなければ、次の価格設定へ進みます。

画面3 価格を決める

最後の画面では、主に次の3つを決めます。

1. 販売する地域
 2. KDPセレクト
 3. 販売価格
-

1. 販売する地域

自分が作ったオリジナル作品で、世界中の販売権を持っている場合は、すべての地域で販売する選択肢を選びます。

過去に出版社と契約している本や、ほかの人から権利を借りている本は、契約内容を確認してください。

2. KDPセレクトを選ぶ

KDPセレクトへ登録すると、その電子書籍はKindle Unlimitedの対象になります。

Amazonを中心に販売する場合は、登録を検討しやすい制度です。

ただし、登録期間中は、同じ電子書籍をほかの電子書籍ストアや自分のサイトなどで配信することに制限があります。

登録を考えやすい人

- ・Amazonを中心に販売する
- ・Kindle Unlimitedで読んでもらいたい
- ・ほかの電子書籍ストアで販売しない

慎重に考えたい人

- ・ほかの電子書籍ストアでも販売したい
- ・同じ内容のPDFを販売、配布したい
- ・複数の販売先を持ちたい

自分の販売方法に合わせて選びます。

3. 販売価格を決める

初めての本では、

「いくらなら売れるか」

だけでなく、

「どのような目的で出版するか」

を考えます。

多くの人に読んでもらいたい

比較的購入しやすい価格を検討します。

専門的な内容やワークが多い

内容の具体性に合わせて価格を考えます。

自分のサービスを知ってもらいたい

本を入口として、手に取りやすい価格を検討します。

似た読者向けの本をAmazonで検索し、価格を確認する方法もあります。

迷った場合は、最初の価格を決めて出版してください。

販売価格も、出版後に変更できます。

出版前に確認するのは6つだけ

出版ボタンを押す前に、次の6つだけ確認します。

1. タイトルが表紙と同じ
2. 著者名が表紙と同じ
3. 完成版の原稿を登録した
4. 完成版の表紙を登録した
5. AI利用を正しく申告した
6. プレビューで大きな崩れがない

問題がなければ、

「Kindle本を出版する」

を押します。

これで出版申請は完了です。

出版後に変更できること

出版後に、

「キーワードを変えたい」

「カテゴリーが合っていない気がする」

「説明文をもっと読みやすくしたい」

と思うことがあります。

次のような項目は、出版後も変更できます。

- ・本の説明
- ・キーワード
- ・カテゴリー
- ・販売価格
- ・原稿
- ・表紙

変更後は、Amazonへ反映されるまで時間がかかる場合があります。

しかし、最初からすべてを完璧にする必要はありません。

まず出版し、読者の反応を見ながら改善できます。

出版後に簡単には変更できないこと

一方で、次の情報は出版前にしっかり確認してください。

- ・正式タイトル
- ・正式サブタイトル
- ・メインの著者名
- ・本の言語

特に、タイトルと著者名は表紙と一文字ずつ照合します。

出版申請後はメールを確認する

出版申請後は、KDPによる確認が行われます。

問題がなければ、Amazonで販売が始まります。

修正が必要な場合は、KDPからメールが届きます。

難しい内容が届くとは限りません。

指摘された場所を確認し、修正して再申請すれば大丈夫です。

販売開始後に商品ページを確認する

本が販売開始になったら、Amazonの商品ページを開きます。

確認するのは次の内容です。

- ・表紙
- ・タイトル
- ・著者名
- ・本の説明
- ・販売価格
- ・試し読み

間違いがあれば、KDPの本棚から修正します。

シリーズ内の関連記事

タイトルが決まっていない方

第6回

「タイトルが決まらない人へ」

※ここに第6回の記事リンクを挿入

原稿が完成していない方

第9回

「Kindle原稿を最速で完成させる」

※ここに第9回の記事リンクを挿入

原稿の推敲が終わっていない方

第10回

「書き終えた原稿を、そのまま出版してはいけない」

※ここに第10回の記事リンクを挿入

表紙が完成していない方

第11回

「小さく表示されても選ばれるKindle表紙の作り方」

※ここに第11回の記事リンクを挿入

今日やること

この記事を読み終えたら、KDPへログインしてください。

そして、

1. 本の情報を入力する
2. 原稿と表紙を登録する
3. 価格を決める

この3画面を、上から順番に進めます。

キーワードやカテゴリー、説明文、価格は、あとから変更できます。

迷った項目があっても、下書きとして保存できます。

まずは、正式タイトルと著者名を入力するところから始めてみてください。

最後に

KDPの登録画面には、いくつもの入力欄があります。

最初は、

「難しそう」

と感じるかもしれません。

ですが、行うことは3つだけです。

本の情報を入力する。

原稿と表紙を登録する。

価格を決める。

カテゴリーやキーワードに、最初から完璧な正解を出す必要はありません。

本の内容に合うものを選び、出版後に見直すこともできます。

本の説明や価格、原稿、表紙も、必要に応じて改善できます。

ただし、正式タイトルと著者名だけは、出版前に表紙と正しく一致させてください。

原稿と表紙が完成しているなら、出版まではあと少しです。

KDPの画面を眺め続けるのではなく、まず最初の画面を開いてください。

言語を選ぶ。

タイトルを入力する。

著者名を入力する。

そこまで進めば、KDP登録はもう始まっています。

次回は、

「出版ただけで終わらせない Kindle発売後7日間の動き方」

をテーマに、出版後の告知、無料キャンペーン、レビュー依頼、SNSやコミュニティを使った初動について解説します。